

今日の一問 (やまだ塾)

(2008年5月25日掲載)

No.27	「2007年 自殺対策白書」における「我が国の自殺の現状」について述べよ。	
解答	①自殺者数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺者数は、厚生労働省の人口動態統計によれば、1955年前後、1985年前後に二つの山を形成した後、1998年に急増、以後9年連続して3万人前後で推移し、2006年は前年から632人減少して29,921人となっている。 ・警察庁の自殺の概要資料でも増減の傾向は一致しており、9年連続して3万人超で推移し、2006年は前年から397人減少して32,155人となっている。
	②自殺死亡率の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺死亡率(人口10万人当たりの自殺者数)も、自殺者数と同様の傾向。1998年に急増し、2006年は23.7と高い状態が継続している。 ・男性については総数と同様の傾向で推移し、現在、戦後、最も高い水準となっている。 ・女性は、男性に比べ、一貫して低い水準で推移し、1965年代以後は、大きな変動はない。
	③年齢階級別の自殺者数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・男性については、1955年前後に15歳～34歳の階級が、1985年前後に35歳～54歳の階級が、1998年以降に45歳～64歳の階級がそれぞれ山を形成している。 ・女性については、1955年前後に15歳～34歳の階級が山を形成した後、男性のような大きな変動はみられない。 ・1998年には、男女とも全ての階級で自殺者数が増加しているが、特に中高年男性(45歳～64歳)の占める割合が大きい。
	④職業別の自殺者数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺者数の約半数を「無職者」が占め、次いで「被雇用者」、「自営者」、「主婦・主夫」、「学生・生徒」、「管理職」の順となる傾向が続いている。 ・平成18年は、「無職者」が47.9%、次いで「被雇用者」が25.4%、「自営者」が11.1%を占めている。 ・1998年には、「自営者」(43.8%増)、「雇用者」(39.7%増)が大幅に増加している。
	⑤原因・動機別の自殺者数の推移	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺者数の約半数を「健康問題」が占め、次いで「経済・生活問題」、「家庭問題」、「勤務問題」、「男女問題」、「学校問題」の順となる傾向が続いている。 ・2006年は、「健康問題」が47.9%と最も多く、次いで「経済・生活問題」が

	<p>21.7%,「家庭問題」が9.2%を占めている。</p> <p>・1998年には、「経済・生活問題」(70.4%増),「勤務問題」(52.6%増)が大幅に増加している。</p>
⑥1998年における自殺者数の急増要因	<p>・統計分析から明らかにすることには限界もあるが,人口増と高齢化の進展に加え,当時の社会経済的変動が働き盛りの男性に対し強く影響し,中高年男性の自殺死亡率が急増し,併せて,社会経済の変動に影響されやすい特徴をもつ60歳代の自殺死亡率も増加しており,これらの影響が相まって自殺者数が急増したものと推測されている。</p>
⑦都道府県別の自殺死亡率の年次比較	<p>・北東北,南九州で自殺死亡率が高い傾向にある。自殺者数が急増する以前の1997年との比較では,全ての都道府県で自殺死亡率が上昇している。</p>
⑧手段別の自殺の状況	<p>・男女とも「首吊り」が最も多く,次いで男性については,20歳代～40歳代で「ガス」が多く,女性については,19歳以下～40歳代で「飛び降り」が多くなっている。</p>
⑨月別の自殺の状況	<p>・総数では,「3月」が最も多く,次いで「11月」,「10月」の順となっている。</p>
⑩自殺の場所の状況	<p>・総数では,「自宅」が53.5%と最も多くなっており,次いで,「乗物」が9.2%,「海(湖)・河川」が5.4%,「山」が5.3%,「高層ビル」が4.5%を占めている。</p>
⑪自殺死亡率の国際比較	<p>・各国の自殺死亡率については,リトアニアが40.2と最も高く,次いでベラルーシが35.1,ロシアが34.3となっており,日本は24.0で9番目となっている。</p>

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.